

令和7年度福島県立図書館協議会会議録

- 日 時 令和7年11月20日(木)
午後1時30分～3時00分
- 場 所 福島県立図書館 第1研修室
- 出席委員 神野 誠
菅野 隆一
佐藤 佐敏
佐藤 秀美
佐藤 房枝
佐藤 美千代
高橋 正人
林 文子
星野 亜希
松田 典之
- 教育庁社会教育課 主幹(兼)副課長 児島 学
主任主査 太田 栄一
副主査 有間 咲恵
- 県立図書館 館長 大江 賢一
副館長 大槻 立志
主幹(兼)企画管理部長 古川 純子
総括司書(兼)資料情報サービス部長 鈴木 史穂
企画管理部 主任主査 渡部 智
企画管理部 専門司書 加藤 麻依子
資料情報サービス部 一般資料チーム 専門司書 橋本 栄理子
" 地域資料チーム 専門司書 田中 信乃
" 児童資料チーム 主任司書 梅津 直美
" 逐次刊行資料チーム 主任司書 鈴木 知基

1 協議会委員 辞令交付

開会に先立ち、協議会委員へ大江館長より辞令を交付した。

2 開 会

企画管理部主幹(兼)企画管理部長(以下「企画管理部長」)の進行により定刻どおり開会した。

3 館長あいさつ

(略)

委員の交代

(略)

委員・図書館・社会教育課職員紹介

(略)

欠席委員報告

なし

4 議 事

協議会長及び副会長が任期満了となったため、星野亜希委員に仮議長をお願いした。

仮議長が、福島県立図書館協議会に関する条例（以下「協議会条例」）第5条第2項の規定により、会議は委員の過半数の出席が成立要件であり、委員10名のうち10名が出席されていることから、会議は有効に成立していることを報告した。

(1) 会長及び副会長の選出

仮議長が、協議会条例第4条第1項の規定により、委員の互選により定めることを告げ意見を求めたところ、事務局案の提示を求める意見があり、「異議なし」を確認し、事務局案を求めた。

事務局の大槻副館長から「会長は佐藤佐敏委員、副会長は佐藤秀美委員としてはどうか。」との提案があり、仮議長が意見を求めたところ、「異議なし」を確認し、佐藤佐敏委員を会長に、佐藤秀美委員を副会長に選出した。

仮議長は、協議会条例及び慣例により、佐藤佐敏会長に以後の議長をお願いした。

【佐藤（佐）会長あいさつ】 改めまして佐藤です。昨年からの顔ぶれも多く、大変心強く思っております。今回もスムーズな進行への御協力をよろしく申し上げます。

(2) 議事録署名人の選出

議長が、議事録署名人の選出については議長指名でよいか諮り、「異議なし」を確認し、佐藤房枝委員及び佐藤美千代委員を選任した。

(3) 報告事項

① 令和6年度図書館利用実績について

佐藤（佐）議長 事務局から説明をお願いする。

総括司書兼資料情報サービス部長（以下「資料情報部長」） （資料1に基づき説明）（略）

佐藤（佐）議長 事務局から説明があったが、皆さんから質問やご意見はあるか。

高橋委員 2ページの図表4で、東日本大震災関連の貸出冊数は、地域資料に分類されているのか、それとも他の項目にも集計されているのか。併せて、震災関連の資料のうち福島ならではのものが、どれくらい貸し出されているかが分かるデータもあれば、後年の参考になると思う。

資料情報部長 東日本大震災復興ライブラリーの図書資料は、地域資料のみならず防災、一般資料など他の分野にもまたがっている。ライブラリーの増加冊数については、ホームページを毎年更新しているが、冊数や利用状況の集計も次回は準備したい。

林委員 2ページの2の(1)で、児童資料の貸し出しが1万5千冊増加し、これが全体の数字を底上げしているとあり、また、その増加要因は、福島市の取り組み、コロナ禍で読書習慣が身についたことと推論していたが、毎年実施されている国や県の読書活動調査の結果

も教えて欲しい。県立図書館の果たす役割の大きさを改めて感じる。

資料情報部長 毎年実施している福島県が行っている「読書に関する調査」については、ホームページで公開されているので、後ほど URL をお知らせする。

林委員 比例して伸びていたと思うが。

資料情報部長 即答できかねるので、資料を確認して回答する。

佐藤（秀）委員 1ページの図表2について伺いたい。令和6年度は、令和元年と比較可能だということだが、令和元年度と令和6年度を比較すると、入館者の総数自体は減っているが個人貸出利用者数の1日平均は増えている。開館日数が同じぐらいである中で、このような逆転が見られるのは、何か社会的な要因があるのか。

資料情報部長 コロナ禍で、図書館で読むよりも自宅に持ち帰って読む方が増えたのではないかと考えている。また、来館し新聞や雑誌等を閲覧するだけの方、また、調べるだけの方もおり、調べるためのレファレンスブック、辞典類等は館内閲覧だけとして、いつ来ても利用できるように準備しているので、そういった資料だけの利用もある。146人から155人へと10人、若干の伸びは見られるが、大きく増加したとは一概には言えない。

佐藤（房）委員 遠隔地から来ているため非来館サービスに大きな関心がある。資料では地元の市町村図書館等となっているが、図書館と名乗れない図書室程度の施設も含まれるのか。全市町村に行き渡ってるという理解でよろしいか。

資料情報部長 受取館指定サービスは、受け取り可能な施設ということで、図書館のみとしている。協力貸出は、県内の図書館、公民館図書室全てで実施している。周知度が低いのは、広報が足りない等の要因もあるかと思う。また、県立図書館で借りた本を地元で返却できる遠隔地返却は、図書館と受け取ってくれる一部の公民館図書室に依頼しているので、承諾があれば当館から借りた本を地元の公民館図書室に返却していただける場合もある。現状ではすべての公民館図書室で協力貸出を行っているわけではない。協力貸出は、県内の図書館全てと公民館図書室の一部で実施している。

佐藤（佐）議長 実績は全体的に少しずつ右肩上がりになっていると考えられるだろう。皆様の奮闘ぶりに感謝申し上げる。

② 福島県立図書館アクションプラン（第4次）取組結果 及び ③福島県立図書館アクションプラン第5次の取組状況について

佐藤（佐）議長 関連があるため、事務局から併せて説明願う。

企画管理部長 （資料2及び資料3に基づき説明）（略）

佐藤（美）委員 児童書の収集や予算等について、要望も含めて質問したい。資料2の指標⑥、児童資料の貸出冊数で目標値を大きく超えており、素晴らしいと思う。また資料3も、2-1に児童資料や研究室資料の充実、2-4にも学校図書館への支援等の指標が示されている。今回の資料にはないが、令和7年3月には第5次子ども読書活動推進計画も策定され、子どもの読書に力を入れているところだと思う。ぜひ今後も県立図書館の児童資料の充実を図り、県内の市町村立図書館や学校図書館、そして児童書を必要としている全ての県民に向けて、県立図書館にリードしていただきたい。

なお、最近の児童書は、絵本も含めてテーマが複雑化、多様化しており幅広いジャンルの児童書が出版されている。例えばジェンダー問題やソーシャルスキル、AI、投資

や金融についての児童書まで、多岐にわたる内容が出版されている。従来、図書館で扱ってきた名作やロングセラー、また調べ学習のような主要な児童書も、最近では現代の子どもたちが読みやすいように装丁、書体、文体を今風に改定した上で多数出版されていると聞く。そこで、限られた予算の中では、児童書の収集が賄えなくなってきてはいないだろうかと質問したい。時代のニーズに即して、幅広いテーマの児童書を網羅的に収集することが、今の予算の中では難しいのではないか。

もう1点が、児童書に対する今後の予算に力を入れていくのかどうか、予算措置はどうなっていくのか。素晴らしいアクションプランの中で、児童に対するサービス、公共図書館に対するサービスの説明があった。その中で、子どもの読書推進や資料の充実、学校図書館サポートなど、事業を進める上で、本を賄うだけの予算が必要になってくると思うので、可能な範囲でお聞かせ願いたい。

資料情報部長 児童書は、可能な限り網羅的に収集しようと考えているが、全てを賄えてはいない。また収集方針によって購入してないものもあるので、厳密には全て網羅的という訳ではないが、できる限り購入して市町村の図書館のバックアップができるように準備している。

佐藤(美)委員 二つ目も予算についてだが、今後、子ども読書推進計画やこの第5次アクションプランでも児童書について目標としている。市町村の図書館では予算的になかなか難しいところがあるため、県立図書館の相互貸借等の利用に頼っているのが現状だ。もちろん、市町村図書館でも努力して予算獲得に邁進しているが、県立図書館にリードしていただけるような予算をぜひ確保して欲しい。

企画管理部長 予算については、県全体の予算が厳しいことに加えて、資料の単価自体が物価上昇等の影響で上がることはあっても下がることはない状況である。その中で、優先順位をつけて選書をしているところだが、特に児童の分野については、先程、総括司書から説明があったように、収集方針に基づき、網羅的な収集を心がけている。今後とも、県庁での当館担当課である社会教育課を通じて、必要な予算の確保に努めてまいりたい。

林委員 アクションプランの4-1で、広報の強化が課題だと言っていたので、第5次の取り組みにおける具体的な例を幾つか教えていただきたい。例えば、主な取組の中の2-1には、児童図書研究室ニュース発行準備と書かれているが、発行の方法や対象はどんなところなのか、また、2点目として、学校図書館サポートセットの要項が改正され運用開始となったとあるが、改正点はどのようなものだったのか。最後に、3点目として、レファレンス協同データベース登録件数の記述があるが、どういった方あるいは団体が登録しているのか、範囲等を教えていただきたい。

企画管理部長 広報の強化については、図書館にあるが知らない利用者には知られてないサービスや、開催しているイベント等を一層周知し、図書館に来る利用機会の増を目指して取り組んでいる。今年度については、X(旧ツイッター)の発信の機会の増や、県政記者クラブへの情報の投げ込みを増やす、また館内掲示もこまめに行う等のことを実施しているところだ。

資料情報部長 児童図書研究室ニュースについては、児童書に関心のある方、または研究されている方等の参考になるイベントや研修会、または情報を年に数回、不定期に発行しているものである。さらにもう一つ、「Little Big」という中高生向けの読書案内も

発行している。本の情報はそちらにも載せている。

学校図書館サポートセットについてだが、通常、小学校中学校の図書館だと、その自治体に図書館があれば、そこがバックアップして学校図書館の不足をサポートしている。ただし、県内には図書館未設置の町村が多いため、バックアップのない学校図書館に特に利用していただきたいと考えている。しかし、物流の関係から公民館図書室経由で貸出したり、返却も近くの図書館に直接持参してきてもらうなど利用しづらいところがあったので、期間を1か月から6か月へと延長して利便性を高める変更を行ったところだ。

なお、レファレンス協同データベースは、国立国会図書館が主であり、全国の公共図書館のみならず専門図書館、大学図書館等のレファレンス、調査相談の記録を掲載して、ネットで検索でき、全国の図書館が調査した結果を参照できる。最近では活用が進んでおり、よくある調べ物はそちらで調べ、参考にすることもできる。

林委員 レファレンス協同データベースについて教えていただき、なるほど使えるというのが理解できた。デジタル化すれば、知の拠点としての働きがもっと広がるのではないかと。県立図書館がホームページに公開してくれればみんなが利用できる。学校の現場で授業をしていると、学校図書館サポートセットも使ったことがあるが、同じ時期に同じ教材をいっぺんに借りたいということが重なることがある。現場の教員にとっては、この単元だったらどんな本のセットを組んだらいいのか、学校司書がいる学校もちろんあるが、福島市の場合、何校か掛け持ちで勤務している状況で細かい相談まで全部応じられない。学校司書がいらない中では、一般の教員が自力でそれを集めるのは難しい状況にある。この場合はこの本が使えるなどというのをホームページで公開していただくとありがたい。県立図書館の情報をもっと私たちに教えていただきたい。

資料情報部長 当館の学校図書館サポートセットは、幾つか新しくして、テーマごとにホームページで公開しているものもある。また特色として、当館ではオーダーメイドで、単元での利用や、探しているテーマの本に関して、その時の旬な本を選んでセットにして貸し出すこともしているので、ぜひご活用頂きたい。

佐藤（佐）議長 （学校図書館サポートセットについては、）うちの研究室の学生からの、「こういった本でまとめて欲しい」という要望にも協力いただき、感謝申し上げます。オーダーメイドの取り組みが、さらに広がることを期待する。

高橋委員 館長の図書館報の4ページと併せて伺いたい。森合移転40周年、さらに4年後には100年を迎えるためPRが重要になっていく。それに関して、アクションプランの第5次、資料3の年間貸出総冊数が20万、そしてそれを令和12年には目標値23万冊としたい、とのことだが、一つは、例えば南東北3県の宮城、山形、の県立図書館の年間貸出総冊数は、どのくらいを目標値としているのか、または実態はどうか、もちろん、当館は120万の蔵書数を誇り、他県との比較も単純にはできないと思うが、この20万冊というのが、全国、あるいは東北の中でどのくらいなのかと知りたい。

併せて、この森合移転の下部にある、「図書館見学ツアー」や「子どものための図書館見学」ということで、具体的に来館するのは大切なことだと思う。これは館長挨拶の中頃にあるが、「当館に足を運び本を手にとっていただくことも重要です」という言葉に全く同感だ。以前も申し上げたが、子ども達が来やすくするには、アカデミックな感じではあるが、ごろすけの特製しおりや、文庫本サイズのブックカバーを配付する取り組み

はありがたい。子ども連れの父母も含めて、あれがもたらした、子どもたちにとっても記念になると、直接、貸出に好影響を及ぼすかどうかは別だが、まさに開かれた県立図書館、あるいは優しさのあふれた図書館という観点でいうと、そういう付随したものの重要性を感じる。図書館報の5ページ右上にもあるが、クイズラリーや子供達にとって魅力的な取り組みが大事だと思ったので、これからの動きも含め、さらなる説明があれば教えていただきたい。

それから、いわゆる広報の取り組みで、年間貸出総冊数に特化した形で言えば、様々な展示等もされている。来館のたび非常に興味深く感じているが、そのPR、あるいは例えば、来年3月11日が一つの区切りになるので、例えば著名な方々、郡山市では芥川賞受賞作家の鈴木結生さんを招いた講演会は、立錫の余地もないぐらい観衆が集まったこともあり、様々な取り組みで、映画でも、田部井淳子氏をモデルにした吉永小百合氏出演の映画等があるが、関連して田部井淳子氏の本等、素朴に県民に響く形の展示、紹介等があると、県立図書館に行ってみたいと思うのではないかと思う。

資料情報部長 まず、宮城、山形と比較した場合の貸出冊数についてだが、資料を用意していなかったため回答できず申し訳ない。ただ、当館の年間貸出総冊数は個人貸出ではなく、当館の事業全てに係る貸出冊数であるので、例えば宮城県や山形県の図書館は移動図書館を実施していないので、単純比較ができないところもある。そのような理由で、個人だけではなく市町村を含む貸出冊数での比較は難しいが、何か比較ができるものについて考えてみたい。

また、見学ツアーにおける、ごろすけのしおりやブックカバーはお陰様で非常に好評だった。

なお、当館の展示についてのご意見及び激励についても感謝申し上げます。展示も好評で、市外からの来館もあつたり、好評の声が届いたりしていた。引き続きさらなる広報、PRができるように考えていきたい。

佐藤(秀)委員 DXに関しては、三つの視点が挙げられており、そのうちの①デジタル資源をつくるという部分について記述があるように、いつでもどこにいても誰にでも、という項目の達成は大変大事なことだと思う。現在は地域資料、福島県関連資料の方から取り組んでいるとのことだが、それは著作権上の処理や、容易な資料から始めているという理解でよろしいか。また、この先、デジタル資料の作成は、どのような展開を考えているのか。

資料情報部長 デジタル化については、当館のみが所蔵している福島県に関する資料、状態が悪く劣化により利用が困難な資料、そして、劣化して見られなくなる前にデジタル化して保存したい資料を優先的に、貴重なものからデジタル化を進めていくつもりである。まず、明治期以前のものから始めており、今後については、1月にシステム更新した時に、「福島県道路風景画帖」等、既にデジタル化されてホームページで公開していた資料もより高画質で公開できるようにし、加えて、ホームページで公開していなかったものも公開する予定で準備している。順次、それらの貴重資料を公開していく予定なのでご活用頂きたい。

佐藤(佐)議長 こちらの実施した187件は外注したということか。費用もかかることかと思うが、おそらく莫大な蔵書数に比べると100幾つというのは、ほんのまだ始めたばかりだと推測する。地域資料は速やかに進めて欲しい。

資料情報部長 補足となるが、現在、国立国会図書館が蔵書のデジタル化を進めており、インタ

ーネットでも閲覧できる資料が増えている。国会図書館がデジタル化したものは、ネットでご活用頂ける。そのため、国会図書館で所蔵しておらず、デジタル化もされていない、当館独自の資料のデジタル化をすることになるであろうことを補足したい。

佐藤 (佐) 議長 宮城県の県立図書館の貸出数はすぐ調べられるものなのかと思い、今、ChatGPTで見てみたが、公表はされていなかった。これからは、やはりChatGPTの関係で、デジタルデータになっているものは、何でもその場で調べるようになっていくかと思う。そういった意味でも、ここにしかない地域資料を中心に、デジタル化を推進していただきたい。

(4) その他

佐藤 (佐) 議長 次に、その他として、委員からご意見等はあるか。(特になし) 他にないようなので、事務局から何かあるか。

大槻副館長 特にないが、一言だけ補足したい。

先程は当館の展示についてお褒めいただき感謝申し上げます。今現在、福島の城の展示をしており、棚倉城の紹介もしたが、今朝、棚倉町から、展示への感謝と御礼の電話が来た。投げ込みをしたマスコミが広報してくださったお陰と思う。こういうことにより県内に福島県立図書館の企画が周知され、認知していただけたらと思います、非常にありがたい。

佐藤 (佐) 議長 それでは以上をもって本日の議事を終了する。皆様のご協力により議事の全てが終了したので、議長の任を解かせていただく。

大江館長 佐藤会長、また委員の皆様、ご質問あるいはご意見、ご提案に感謝申し上げます。こういった皆さんが参集する会議の場は1年に1回程度である。この場に限らず、また本日の資料に限らず、お気づきの点、ご意見ご要望などがあれば、事務局に随时お寄せいただきたい。今後とも職員一丸となり、図書館運営は、より高いところを目指していきたいと思っている。委員の皆様には引き続き、ご支援、ご助言等を賜りたい。本日はありがとうございました。

5 閉 会

議事録署名人 佐藤 房枝 

議事録署名人 佐藤 美子代 

佐藤

佐藤